

平成三十一年二月投句

春雨の雫たらすや軒の鳥

立春の光差し込む地下遺構

だんだんと細くなる径いぬふぐり

節子

夫好むことに相槌寒明くる

真理子

靴を脱ぎ汀に拾ふ若布かな

戸口より戸口へ走るうかれ猫

猫さかる独居老人うとうとと

鬼やらひ鬼のひれ伏す神楽殿

撫でてみて逆撫でてみて猫柳

勝利

瀬の音の微か野梅の紅仄か

由紀子

見上げればさわりさわりと春の鷺

貯水池の底のひび割れ笹子鳴く

夢うつつ行きつ戻りつ春の風邪

八百正は大根献じ鬼やらひ

光子

まんさくや修験の山の道標